

ヨコワ来遊予報調査

榊純一郎

【目的】

ヨコワ(クロマグロ幼魚)の主漁期(12月～翌年4月)前に、本県におけるヨコワの漁況を予測し、本県漁業者へ情報提供する。

【方法】

本県に先立って漁場が形成される各県の漁獲データを収集し、本県の漁期全体のヨコワ漁況を予測する。

1 漁獲データ収集先

北部太平洋まき網漁業協同組合連合会

新潟県水産海洋研究所・鳥取県水試・島根県水産技術センター・山口県水産研究センター・高知県水試
長崎県総合水試

2 漁況予測手法

本県の漁獲量と相関の高い予測指標を見いだせなかったため、近隣海域の漁獲データを総合的に勘案し来遊水準を予測。

【結果及び考察】

長崎県対馬の11月までの漁況は前年並であり、また五島、甬島の漁況が低調であったことから、本県の平成22年度漁期のヨコワ来遊量は低水準と予測し、以下のように発表した。

**漁獲量は、前年（1.6トン）・平年（16.8トン）と同様に
低水準*（20トン以下）となるでしょう。**

平成22年度漁期(平成21年11月～平成22年3月)の南薩3漁協におけるヨコワ漁は低調に推移し、予報どおり低水準となった。